

この夏のおみやげ

校長 鈴木 隆志

今年、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック大会に熱く燃えた夏でした。8月4日のオリンピック開幕から9月18日のパラリンピック閉会式まで、数々の名場面が生まれ、たくさんの感動が記憶に残る大会となりました。オリンピック・パラリンピックは、全ての個人の人權としてのスポーツ大会です。友情、連帯、フェアプレー精神とともに相互理解が求められる平和の祭典です。ですから、国を超えて、障害の有無に関わらず、全ての選手たちに声援と称賛を送りたくになります。頑張っている選手たちの姿を応援しながら、私なりに思ったこともありました。それは、なぜ自国のメダル獲得数にばかり注目が集まるのかということです。メダルを獲得した選手だけが英雄なのではありません。力を尽くし頑張った一人一人の選手と彼らを支えたスタッフや家族にも、ありがとうと感謝を伝えたい気持ちでいっぱいです。もう一つ、オリンピックとパラリンピックが、こんなに間をおいて別々に行われているけれど、一緒にはできないのだろうかということです。オリンピックでは興奮して大騒ぎをしていたのに、パラリンピックになると熱も冷めてメディアの報道も少なくなってしまう。いつの日か、オリ・パラが一つになることを望んでやみません。

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、気持ちも動き出しました。学校ではオリ・パラ教育も進められていきます。私にとっては、1964年に次いで二度目の東京大会です。64年大会では、アベベ・ビキラ選手の走りに驚愕し、ベラ・チャスラフスカ選手の姿に魅了された小学生でした。当時の感動は記憶として深く心に刻まれています。今の子供たちにも、感動の記憶を心に刻みつけてほしいと願っています。

光っ子たちの夏休みの自由研究をじっくり見て回りました。各学年とも、創意に満ちた力作揃いで感心させられる作品がたくさんありました。その中から、1年生と6年生の作品を4点紹介します。6年生Aさんの『豊島区のみみずく&ふくろうたち』は、豊島区内に点在するミミズクやフクロウのモニュメントを、6日間にわたり自分の足で探し歩き、写真とイラスト、文章でまとめたものです。70点以上のフクロウたちが記録されています。1年生Bさんの『マーク』も、おうちや地域にある24点の標識やマークを調べ、写真と文章でまとめたものです。「次は電車のマークを見つけたい。」と興味・関心が広がっていました。どちらも自分の足で歩いて調べ上げた力作です。6年生Cさんの『42日間の新聞を追いかける』は、夏休み期間中毎日欠かさず新聞を読み続け、その中から注目の記事を選び、それを書き写し、その上で自分の考えを書き記したものです。『原爆の日』の記事には、「私は心の奥底では、戦争はまだ自分が幼いから理解しなくてもいいんだと感じていた。この記事を読み、日本人として、これからの世界を生きていく人間として、なおさら理解しなくてはいけないと思った。」と自分の考えを述べています。1年生Dさんの『おてつだいか一ど』も、毎日の記録です。毎日欠かさず実行したお手伝いを絵と文でまとめました。最初の日には、煮干しのはらわたを取ることでした。最後のページには、「おてつだいをして、みんなのやくにたつのがうれしかったです。」と、達成感や自己有用感が記されていました。どちらも、毎日の積み重ねが生んだ力作です。

この夏に体験したこと、感じたこと、感動したこと、考えたこと、成し遂げたこと、志したこと、楽しかったこと、嬉しかったこと、悔しかったこと、悲しかったこと…。全てが夏のおみやげです。運動会、マラソン大会、学芸会、そして日々の学習や生活、実りの秋としていきましょう。

* ベラ・チャスラフスカさんは、8月30日に74年の生涯を閉じられました。心より御冥福をお祈りいたします。